学校が生徒にとって魅力的な場所であること

個別の問題解決という「治療的」発想ではなく、全ての生徒が「問題を解決できる大人」へと成長することを目標とする発想が重要である。生徒が人との関わりを持ち、集団の一員として役割を果たすことができるよう、「教職員全員が、生徒一人ひとりの状態をとらえて理解・共有・継続して働きかけを行う」という視点が不可欠である。

～ポイントは「居場所づくり」と「絆づくり」～

▸**居場所づくり**…学校や学級などの居場所を、安心して落ち着ける場所にする。
自己存在感、共感的人間関係を実感できる授業を行う。

＜居場所づくりチェックリスト＞

- □ 清潔で美しく、整頓された学校づくり・学級づくりを行う。
- □ 間違ったり、失敗したりしても笑われない、助け合い協力し合う学級やクラブなどの集団内の友人関係を構築する。
- □ 教室以外の居場所をできるだけたくさん作る。
- □ 生徒個人の状況を把握し、寄り添い、悩みや心配事を相談できる人間関係（担任だけでなく様々な立場の大人に相談できる環境）を構築する。
- □ 教職員間の連携を密にし、情報を共有する。
- □ 保護者にとっても学校が安心して話すことの出来る場になる。
- □ 人権を尊重し、差別やいじめを許さない環境を整える。

▸**絆づくり** 授業や行事等の活動において、全ての生徒が主体的につながりあって活動でき、社会性を身につけるような場をつくる。

＜絆づくりチェックリスト＞

- □ 授業において、生徒が見通しを持ち、主体的に学習に取り組めるようにする。
- □ 教え合い、学び合う授業スタイルを工夫する。
- □ 対人関係のトラブルが起きないようなワーク等を通じて人間関係作りを促進する取り込みを行う。
- □ 人間関係作りを意識した委員会活動や、友人と協力し合うことの大切さと達成感を味わえる学級活動・学校行事を行う。
- □ 生徒が主役であり、教職員は、その場をつくる黒子であることを常に意識する。

◇子どもにとって魅力ある学校とは？ ～不登校を生じさせない学校づくり～

絆づくり
～教員や友人との結びつきや信頼感
～クラス活動や部活動、学校行事などの機会を捉えて

大切な場
～学習意欲を引き出す教科指導
～生徒に応じた学習や配慮

精神的な充足感を得られるこころの居場所
～温かい人間関係
～教育相談の充実

安心・安全が保障された場
～互いを認め合い、いじめ等の人権侵害を許さない集団づくり=人権教育の充実

開かれた学校づくり
～学校・保護者・地域の連携、協働体制

不登校の予防～高校生の場合～

その1 理解編
その2 予防編
その3 支援編

早期発見・早期対応が大切!!
適切な情報収集と、早期のチーム支援！

～インデックス～

◇ 早期発見・早期対応のために
生徒のサインを見逃さない
3日以内にとにかく行動しよう
休みだしたら、即チームで早期対応！

不登校を生まない教室・学校づくり！

◇ 不登校の予防のために
情報収集・共有
生徒にとって、魅力的な学校とは

≪ 早期発見・早期対応のために≫

◇ ～生徒の「小さな変化」を見逃さない～

「あれ？
いつもとちがうな」
という感覚が大切

人間関係	・休み時間等に一人でいることが多くなる ・友人や家族との関係が悪化する ・先生を避ける　等
生活面（心身の様子・行動）	・表情が冴えない・顔色が悪い・無表情・ぼんやりしている ・体調を崩しやすい（頭痛・腹痛・元気がない・ため息が多い） ・保健室や職員室へ行く回数が増える・教室に入るのを嫌がる ・遅刻　早退　特定の日の欠席が増える・生活リズムが乱れる ・行事を嫌がるようになる、部活を休む・やめる ・衣服や髪型が乱れている・身なりを構わない ・話し方や友人に対する態度が変わる ・書字が乱れる ・問題行動が増える・危険物を持っている ・強迫症状が出る　等
学習面	・授業中ぼんやりしていてしんどそうである・宿題や課題をしない ・急に成績が落ちる　等

▸欠席が続くと、**本人の不利益**が大きくなり、保護者や学校による支援も、より難しくなる。
▸欠席を長引かせないためには、**早期発見・早期対応**が非常に重要である。

▸不登校生徒だけではなく日頃からすべての生徒の状況をよく知っておく。
▸生徒の小さな変化に気づいたら、**生活環境も含めて背景を理解する。**

◇早期対応のために

▸早期対応は、その後の状況を大きく左右する最も大きな要素のひとつである。

３日以内にとにかく行動！！

欠席１日目	電話連絡をして、欠席の理由を聞き、状況を把握する。
欠席２日目	電話連絡･状況に応じて家庭訪問をする。 （欠席理由の再確認、実態の把握、保護者からの聞き取り） 学校に行きづらい要因がすぐに解決できるものか、一緒に考えてみる。
欠席３日目	電話連絡･家庭訪問をする。（本人や保護者と会って様子を確認） 状況によっては、学校のチーム体制での支援を考える。（学年団、教育相談、SC、SSW 等）
断続的に月５日以上欠席	学年や教育相談委員会、支援委員会、職員会議等で情報共有⇒支援策の相談･検討

「不登校相当という指標」があります。欠席が 30 日以下でも準不登校という考え方です。

「不登校相当」…欠席日数＋保健室登校日数＋（早退遅刻日数÷２）＝３０日以上

「準不登校」　…欠席日数＋保健室登校日数＋（早退遅刻日数÷２）＝１５日以上３０日未満

（国立教育政策研究所「中１不登校の未然防止に取り組むために」調査分類より）

休みだしたら、即チームで早期対応！！　※リーフレット３参照

２人以上が、チームです

校内委員会等のチームで「ケース会議」

情報収集・共有 → 具体的な指導・支援方針の検討 → 支援策の選択・実施

≪不登校の予防のために≫

情報収集・共有

◇中学校との連携

▸進路選択の際に学校見学等を活用して、入学前から学校をよく知ってもらう。

▸合格後は、事前に中学校での様子を聞きとる　等

◇前担任からの引継ぎ

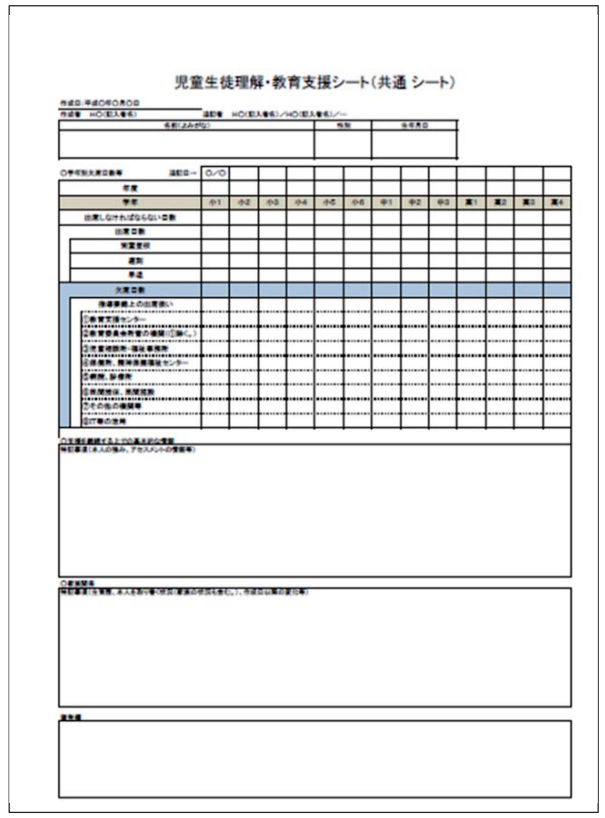
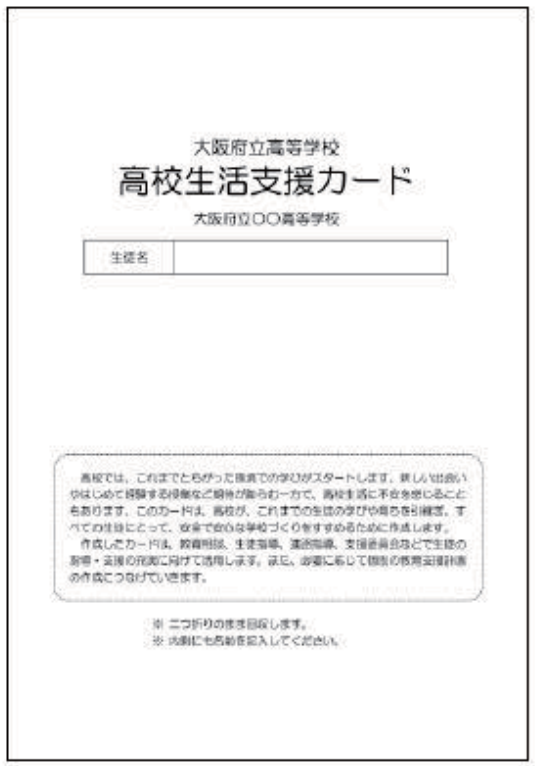
▸休みがちな生徒や不登校経験がある生徒を中心に出席情報や人間関係を収集し、共有しておく。

◇高校生活支援カードや保健調査票の活用

▸「高校生活支援カード」や「保健調査票」の記載内容により、生徒等の状況やニーズを入学時から把握し、指導・支援のスタートとする。

▸「配慮要望」や、本人が「大切にしていること」等の内容や表記法等から、支援のためのさまざまな情報を得ることができる。

▸「高校生活支援カード」と「生徒指導カード」を組み合わせて、３年間継続活用する等の工夫をしている学校もある。

児童生徒理解･教育支援シート(試案)（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm